

うず

日本ハムの牛肉処分問題が大騒ぎになっている。次から次に新しい悪さが明らかになるといふのはどうにもならない。雪印と同じようになってしまつたろうか。

ここで取り上げたいのはそのことではなく、この件に関して面白い日本語が登場した話だ。

農水省は日本ハムに対して営業自粛を行政指導した。行政

指導というのは昔懐かしい言葉だが、さて、これによって営業ストップを決定したのは、だれなんだろう。

自粛というからには日本ハム自体が決めたことのもあり、行政指導というからには役所が決めたことのもある。

行政指導

これを受けて、日本ハムは社内処分を発表し営業を再開しようとしたが、この処分が不十分だということで、農水省は日本ハムが営業自粛をやめることを認めないと言っている。さて、営業をやめたり再開したりは、一体だれが決めるのだらう。

お役人は、自粛という言葉を変テに、

企業が自主的に決めたことだから役所には責任がないと言つたろう。企業側は、役所に命令されたと言つたろう。こうしてだれも責任を取らない体制が出来上がる。

お役人というのは、権限を振りかざしはするが、責任は一切取らないという人

種なので、いままらこれを批判するつもりはないが、企業側は自らの責任で自らの行動を決定する覚悟がないと、長く存在を続けることはできないだろう。これが自己責任ということではないか。

それにしても行政指導とは懐かしい言葉だ。法的根拠なしに何かを命令し、言うことをきかないとひどい目に会わせるぞと脅かす。やっていることは外務省のお役人を脅した鈴木宗男さんと同じだ。違つのは、一方はお役人が一般企業を脅したのに対し、他方は政治家がお役人を脅したということだ。

鈴木宗男さんの方はマスコミ挙げて非難されるのに、農水省を非難するマスコミが見当たらないのは面白いことだ。

(桑太郎)